

医者も知らない 平穩死



連載 24

〈長尾和宏〉長尾ケリ
ニッケン院長。日本尊厳
死協会副理事長。著書
に「『平穩死』100の
条件」など。

「終末期の脱水は友ですよ」は、私が毎日どこかの家で言っていること。腹水や胸水がたまって、慌てて抜かなくて大丈夫」とも。「週3回2回ずつ腹水を抜かなければならぬ末期がんの患者さん」の在宅医療を依頼されたことがあります。診ると、腹水でお腹はパンパンに膨らみ、胸水もたまっています。呼吸はゼイゼイし、食事はできず、見るかに苦しそうです。

終末期の脱水は友

「普通の医者」は、腹水を抜いた後、必ず点滴補給をします。普通でない医者、の私は、腹水、胸水を抜かずに、利尿剤でしばらく様子を見ます。人間が生きていくためには水分が必要不可欠。口から水を飲めず、食事もできなければ、体内にある水分でまかなうこととなります。この患者さんの場合は、腹水、胸水を使って生命を維持します。その証に、食事をしているのにもかわらなく、結構な量の尿が出ました。

1週間後、患者さんの腹水、胸水は激減し、もはや抜く必要はなくなりました。さらに、消化管壁や全身の浮腫が取れ、心不全、呼吸不全、腸閉塞が改善。食事も多少はできるよう

元気がこれからまだまだ生きていく人にとって、脱水は時に命に関わります。しかし、がんや老衰で不治かつ終末期の状態になり、これから平穩死に向かうという人は、脱水は悪というよりむしろ福音。体が省エネモードになることで心臓の負担が減り、呼吸も楽になるなどいいことだらけです。

腹水や胸水を抜くという行為は水分と一緒に貴重な栄養素が失われることになるので、体が衰弱します。そこに水分を点滴補給すれば、「水分を抜いて、入れる」ということで、すから、何をしているのか分かりません。

「平穩死においては脱水は悪」という考えを改めてみませんか？



(写真はイメージ)